

製品安全データ

		液化アンモニア(液安)	アンモニア水(安水)
組成・成分			
化学特性(化学式または一般名)		NH ₃	NH ₄ OH
官報公示整理番号(化審法・安衛法)		(1)ー391	(1)ー314
CAS		7664-41-7	1336-21-6
危険有害性の要約			
最重要危険有害性	有害性	飲み込んだ場合、喉、胃腸障害の症状を起こす。吸入した場合、鼻、喉を激しく刺激し、呼吸困難となる。目に入った場合、角膜腐食、結膜炎を起こす。皮膚に付いた場合、アルカリ腐食により細胞タンパクの変性凍傷になる。	
	物理的および化学的危険性	可燃性、劇物、腐食性、強アルカリ性	アンモニア水は高温になるとアンモニアガスを放出して、空気、酸素との混合で爆発ガスができる。腐食性、強アルカリ性
特定の危険有害性		きわめて有害で、可燃性である。	有毒である。
分類の名称(分類基準は日本方式)		高压ガス、可燃性ガス、急性毒性物質	急性毒性物質、腐食性物質
応急措置			
吸入した場合		ただちに新鮮な空気のある場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、すみやかに医師の手当を受ける。呼吸が止まっている場合、呼吸が弱い場合は、衣服を緩め気道を確保したうえで、人工呼吸を行う。	
皮膚に付着した場合		液状で大気中に取り出した場合には、周囲から大きな潜熱を奪って気化するので、直接皮膚に触れると凍傷になる恐れがある。ただちに付着部または接触部を大量の水を用いて洗い流した後、汚染された衣服や靴等を脱がせる。さらに付着部を大量の水を用いて洗い流す。刺激が残るときには医師の手当てを受ける。	ただちに付着部または接触部を大量の水を用いて洗い流した後、汚染された衣服や靴等を脱がせる。さらに付着部を大量の水で洗い流す。刺激が残るときには医師の手当てを受ける。
目に入った場合		ただちに清浄な流水で15分以上洗眼し、すみやかに医師の手当てを受ける。	
飲み込んだ場合		すみやかに医師の手当てを受ける。医師の手当てを受ける前に、2%硼酸水でうがいをさせ、0.5%クエン酸水、またはレモン水を飲ませることも効果がある。	
火災時の措置			
消火剤		粉末、アルコフォーム、霧状の水が有効である。	
特定の消火方法		消火剤または大量の霧状の水を用いて消火する。周辺火災の場合はすみやかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には容器および周辺を散水する。	周辺火災の場合はすみやかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には容器および周辺を散水する。着火した場合は、消火剤または大量の霧状の水を用いて消火する。消火作業の際には必ず空気呼吸器その他の保護具を着用し、風下で作業をしない。
消火を行う者の保護		消火作業の際には必ず空気呼吸器その他の保護具を着用し、風下で作業をしない。	保護衣、防火服、耐体服、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴。
漏出時の措置			
人体に対する注意事項		風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止する。付近の着火源となるものをすみやかに取り除く。作業の際には必ず保護具を着用する。	風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止する。作業の際には必ず保護具を着用する。
環境に対する注意事項		河川等へ排出され、環境への影響を起さないように注意する。	流出した液が河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意する。
除去方法		少量の場合は、漏洩液を酸で中和させ、pH(中性)調整をして処理する。大量の場合は、土のう等でその流れをせき止め、漏洩箇所をムシロ、毛布等で覆い、漏洩箇所に大量の水を散水する。	少量の場合は、漏洩液を大量の水で中和し洗い流す。大量の場合は、土のう等でその流れをせき止め、漏洩箇所をムシロ、毛布等で覆い、漏洩箇所に大量の水を散水する。
二次災害の防止策		風下では作業しない。	
取扱いおよび保管上の注意			
取扱い	技術的対策	吸い込んだり、眼、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。蒸気の発散をできるだけ抑え、適切な換気を行って、作業環境を許容濃度以下に保つように努める。室内で取り扱う所は局所排気装置を設置する。作業中は飲食、喫煙をしない。	
	注意事項	漏れや飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。容器の転倒、落下、または衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。	
保管	安全取扱い注意事項	高温物、スパーク、火災を避け、強酸化剤、ハロゲン系との接触を避ける。	
	適切な保管条件	直射日光を避け、通風のよい冷暗所に密栓して保管する。容器は、常に40以下で管理する。保管場所は、火気厳禁とし標識を見やすい箇所に掲示する。	直射日光を避け、通風のよい冷暗所に密栓して保管する。保管場所は、火気厳禁とし標識を見やすい箇所に掲示する。
	安全な容器包装材料	容器は、充填容器、残ガス容器にそれぞれ区分して管理する。	
主な適用法令			
		労働安全衛生法、高压ガス保安法、悪臭防止法、毒物および劇物取締法	労働安全衛生法、悪臭防止法、水質汚濁防止法

詳細は、SDS(安全データシート)をご確認下さい。